

新宿の文化芸術の継承・発展のために

令和2年2月ごろから新型コロナウイルス感染症の感染拡大が顕著となり、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会の開催も延期となりました。

文化芸術界においては、公演、上映、展示等の主催者はもちろん、それらの実施に携わるスタッフ、施設など広範囲に渡り極めて大きな影響を受け、区民等が文化芸術に触れられる機会も失われました。

そうした中、文化芸術界では、動画配信をはじめとしたICTを活用した新たな取り組みも進みました。

一方で、多彩な文化芸術活動が活発に行われている新宿駅周辺地域では、今後再開が進むことにより、街の様相も大きく変わる中で、文化芸術の位置付けも変化しつつあります。

こうした状況を踏まえ、令和2年9月からの2か年を任期とする新宿区文化芸術振興会議の第6期では、新宿区の文化芸術の振興について意見交換を行い、調査審議事項を「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」及び「(新宿区全体への展開を見据えた)新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」と決定し、その実現に向けた提言を行うべく調査審議を進めました。

第6期の会議において、調査審議事項「新しい生活様式を見据えた文化芸術振興におけるICTの活用」については、ICT関連の技術が急速な進歩を続けていること、ICTの活用方法が多岐に渡ることなどから、提言に向けて更なる審議が必要となりました。

また、調査審議事項「新宿駅周辺地域を中心とする地域の文化芸術活動主体の連携の促進」については、新宿駅周辺地域の再開が長期に渡り、未確定な部分も少なくないことや、各文化芸術活動主体が、新型コロナウイルス感染症の影響によりその活動に著しい制約を受け、連携や活動の状況等の把握が難しい状況がありました。

こうしたことから、現時点での確定的な提言が困難であるとの認識に至り、今後の議論の深化も視野に入れながら、今期の報告は、「中間のまとめ」として整理することとしました。

この報告書が、これまで新宿のまちで培われてきた文化芸術がコロナ禍を乗り越えて継承され、さらなる発展を遂げていくことへ資することを期待します。